



有松まちづくりの会役員会 (4月28日)

5月16日13:30から校会館2階で開催される総会について、

- ・ 令和6年度 事業・活動報告、収支決算報告
- ・ 令和7年度 事業・活動計画案、収支予算案、役員改選

上記の検討を行いました。

総会当日の役割分担など運営についても具体的に決めました。

また、6月7日8日の絞りまつりで会の活動資金を得るため実施する絞体験キットについて、具体案が提示されました。

有松福よせ雛さんぽ道 終わる (3月23日)

約1ヶ月に渡る"春のありまつさんぽ道"が終わった。実行委員会の皆さんは3日掛けて展示の取り外し。これが大変。格子戸に傷をつけないように紐を切る。回収後は分別作業。雛など多くは供養後処分されるが、雛を載せていた板は来年も使う。覆っている布を外すのが結構手間がかかるようだ。取材のときは10人程の方が取り組んでいた。

有松東海道に福よせ雛が飾られるようになって10年。年々取り組みが充実してきている。実行委員会から提供された雛人形を、地域の皆さんが思い思いに手を加えて再活躍の場を与えてくださっている。その出来栄えがすごい！

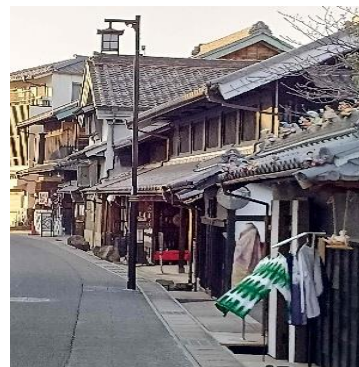
その一端を多くの方に紹介できればと、実行委員の六鹿晴美さんを中心に”おすすめスポット特集(仮)”を制作された。展示された雛のうち特徴の際立つ約40体を紹介。細工や製作者の思いなどの情報を六鹿さんが紹介し、実行委員等が絶妙なアングルで写真を撮られた。SNSにもアップされ、広く多くの方にPRされた。最終日3月23日に行われた区役所主催(協力：有松あないびとの会・緑区ルネッサンスフォーラム)の福よせ雛散策会では、"特集"を活用して個性的な福よせ雛が紹介されていた。

第3回 岡家住宅の活用に向けたワークショップ (3月19日) 於:モスアリマツ

第2回WS(11月6日)の振り返りの後、**岡家住宅における必要機能・規模の考え方**についての案が提示。

- ①歴史的建造物(岡家住宅)の公開・案内に関する業務
 - ②有松に関する資料の収集・保管・調査・展示・案内に関する業務
 - ③観光案内・誘客に関する業務(有松地区の観光案内、周辺観光地の紹介/有松地区のプロモーション・情報発信/有松における体験等の企画・調整・運営/まつり等への協力/誘客につながるイベントの企画・調整・運営)
 - ④有松における学習や交流の窓口に関する業務 指定管理者制度を想定している
- 提示ののち、上記試案について意見交換が行われた。

「基本計画案」は夏ごろを目途に提示され、再度ワークショップが行われる予定。



まちの風景:有松小町



春のありまつさんぽ道
おすすめスポット特集(仮)
お楽しみください。春のありまつさんぽ道を紹介します。
VOL.2

緑区クアオルト健康ウォーキング 有松コース 開設 (3月22日) 於:ありまつ公園

ドイツのクアオルト(療養地)で治療に利用されている療法を基に考案されたウォーキングで、生活習慣病の予防やメンタルヘルスの改善に効果があると言われている。自然豊かで起伏に富み、貴重な歴史文化に彩られた緑区にコースが設定された。一昨年の大高地域に続き、昨年度は鳴海・有松地域に設けられた。

22日に有松のコースの完成式典があり、日本クアオルト研究所の大城孝幸代表(写真右)が瀬音秀幸区長(中央)に認定書を手渡した。有松学区の区政協力委員会の堀内広美委員長(左)も列席。

コースは"江戸情緒と絞りのまち 日本遺産有松コース"に相応しく東海道、より古い長坂道、高低差のある有松天満社、最後に京都嵐山の景観を彷彿させる細根山を巡る。専門の認定ガイドが案内した。

地元の協力もあり充実した散策会となった。絞りの久田本店では茶室まで開けていただいた。天満社では開門し境内まで見学させていただくとともに、中町年行司では川勝尚子さんより唐子車の説明もしていただいた。細根山では日頃、保全活動に取り組まれている細根公園特定愛護会の皆さんの活動を目にすることができた。

参加者は約50人程。コース途中に数か所心拍数の計測地点を設け「頑張らない」よう適度な運動量を意識しながら歩く。「ヤッホ」と皆で大きな声で叫ぶ場面も・心も体もリフレッシュできたのではないかな。

令和7年度は4回実施の予定。

5月10日(土) 9:30～ 11月1日(土) 9:30～

令和8年1月(予定) 2月20日(金) 9:30～



東海道沿い 西町



有松天満社 参道



細根山 竹林散策路

散策会 "春を探しに出かけませんか" (有松3月23日・桶狭間3月28日)

寒さが和らぐ3月、今年も緑区役所主催の歴史と自然を満喫する散策会が行われた。桶狭間では地蔵池・大池・東池の桜の見学。(協力:桶狭間古戦場保存会)開花が遅れ参加者は少なめ。桜も1分咲き程で残念でしたが、少人数での案内が好評のようでした。桶狭間では小学生の参加があり「いろんな道や歴史を知ることができてよかった」と感想を寄せてくれた。最後に観光案内所で兜をかぶることができ大満足の様子でした。

絞会館 資料室一部展示替え/実演者増員

浮世絵に絞り柄が描かれることは少なくなく、江戸時代の柄を知る貴重な資料である。絞会館2階の資料室には、山田勇氏から寄贈された浮世絵の一部が展示されている。中には広重の有名な"縦絵東海道(五十三次名所図会)"もあった。(写真右)

実演コーナーには新たに4人の方が加わった。※印

月:浅井安英(横引き鹿の子絞り)・蜂矢智子※(縫い絞り)/火:松岡清子(竜巻絞り)・南埜ヤス子(羅仙鹿の子絞り)

水:堀田まき子(手蜘蛛絞り)・竹内たか子※(巻上絞り)/木:小林喜代子(竜巻絞り)・立松貴子※(三浦絞り)

金:深谷幸子(突き出し鹿の子絞り)・辻かおり※(三浦絞り)/土:高橋 瞳(手蜘蛛絞り)・荒川泰代(三浦絞り)

日:藤原すみ江(三浦絞り)

絞りの技能だけでなく、見学者を魅了する会話力にも脱帽です。



鈴木伸明写真展 知多に五彩あり

(3月22日23日29日30日) 於:六弦とコットン

武豊在住。ここでの個展は3度目。「知多半島の陰影にカメラを向けると、そこには水墨画のような世界が見えました」と。そのような写真が8枚展示してあった。作品の雰囲気に合わせて和紙にプリントされている。こだわりぬいた作品に完成度の高さを感じる。今後、数枚を連載する。

上方落語 桂九雀独演会 (4月6日) 於:寿限無茶屋

桜満開の時期、会場は30人満席の客で笑いに満ちていた。

17回目の演目は、桜にまつわるもの数点と「新説! 桶狭間の戦い」。地元が舞台ということもあり、参加者は聞きほれていた。上演に至る経緯が面白い。

他会場で地元の歴史ライター 水野誠志朗氏と出会った演者が、リップサービスで合戦のシナリオを依頼したところ、2週間で実際に書いてくださったとのこと。こんなことがあるのですね。



【次回】9月7日(日) 15時～ 寿限無茶屋にて
電子メールでのご案内 katsurakujaku@gmail.com

絞りLab を訪ねて ① 教室の様子4/10

有松・鳴海絞手括り技術保存会が愛知県より認定された事は、先号でお知らせした。具体的にどのような取り組みがなされているのか、絞りLabでの後継者育成事業について取材させていただいた。

訪問した日は、2年目の研修生10名程が講師(16年目)から個別に括り方を学んでいた。浴衣一反の完成はもう直ぐ。括る速さはゆっくりだが、自らの技量を高めたいと、熱心に取り組む姿が印象的だ。月に2回学びに集まり仲間同士の雰囲気もいい。研修後5年が経ち、一定の技量を身につけたら修了証が渡されるとのこと。その後は、職人として工賃を得て加工作業に従事する。

ご説明くださった責任者の名桐秋雄氏は、「産地で括りができなくなることは、あってはならない。現在、研修生は70名程。絞りまつりや絞会館での実演に携わっている。仲間の中から伝統工芸士が誕生するのが待ち遠しい」と。

「2009年より始められた育成事業は、当初は続けられるのか心配だったが、愚直に続けることで絞り産地の土台を築くことができた」と、おっしゃっていた。

須田寛さん 93歳でご逝去

時代に先駆けて"産業観光"を提唱したJR東海の初代社長須田寛さんが、昨年12月13日に93歳で亡くなりました。須田さんは有松の重伝建選定に向け多大なるご支援をしてくださいました。有松での講演で「有松に来れば、職人さんの絞りの技を実際に見、その方と話ができる。ハンカチを染めるなど体験することもできます」(会報"有松"72号)と、有松の新しい観光への可能性をすでに10年前に具体的に提言されています。合掌。

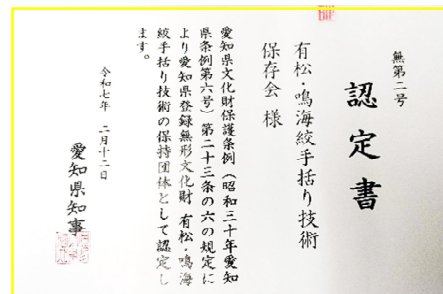


知多半島 つぶて浦



鳥居は伊勢神宮で使われたもの
石は神様の力比で神宮から投げたもの

鈴木伸明 Piece of CHITA①



寄稿 人ひと

有松の町並みと絞りと ～人々の心に魅せられて～ 伊藤多香子

10年ほど前から、有松あないびとの会の一員として町並み案内をし、また帽子職人として旧山田薬局で製品を展示させていただきました。5年前には、主人の大好きだった街大須から私の大好きな有松の近くへと移住してきてしまいました。

有松に少しでも貢献できたらと、NPO法人コンソーシアム有松にも入会。それまで趣味で作っていたハンチングに有松絞りを取り入れて制作。"絞りの久田"や"彩 Aya Irodori"で販売していただいて5年になります。少しずつ"工房TAKAKO"も知っていただけるようになり、帽子ファンの方から「被っていると"良いね"と声を掛けていただける」とうれしい言葉を聞くようになりました。

帽子を作っていると自分の手で絞り染めをしたくなりました。括り糸を外し布を広げた時のわくわく感・ドキドキ感。その後の満足感・達成感。仲間もでき、一緒に感動を味わっています。

こんな中、コンソーシアム有松から"有松まちなみ美術館"への出品の話がありました。人生最後の華を咲かせられると感動しました。あないびととして、帽子職人として、あと何年活動できるか分かりませんが、一日一日を大事に有松と共に生きたい。有松の皆様に感謝しながら終わりを迎えたいと思っています。がんばれと自分自身を励ましつつ…



絞り染め できました

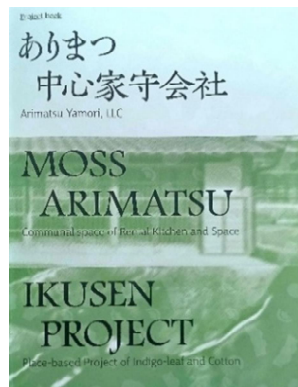


有松まちなみ美術館(旧山田薬局)での展示風景

合同会社 ありまつ中心家守会社 活動紹介冊子 発行 (2月28日)

2018年、浅野 翔・武馬淑恵・山上正晃の3人が共同代表となり合同会社ありまつ中心家守会社が設立された。有松に根ざしたものづくり文化が育んできた価値観や関係性、つまり自然との共生や地域の人々とのつながりを大切にする精神を受け継いでいくために **moss ARIMATSU** (モスアリマツ) という場が作られ、**イクセンプロジェクト**が実施された。主にこの2つの活動が詳しく紹介されている。

モスアリマツは2024年4月にレンタルキッチンスペースとしてオープンし、新たなチャレンジを応援するために活用されている。藍や綿を育て、染め、布にするまでを体験するイクセンプロジェクトでは、伝統工芸の魅力や循環型社会における新たなライフスタイルを身近に感じられる機会が創出されている。(冊子「ありまつ中心家守会社」より)



催事・行事予定

- ～5月11日(日) 絞り鯉のぼり展示 有松東海道 有松まちづくりの会
5月2日(金) 19:30 NPO法人桶狭間古戦場保存会総会 桶狭間公民館
5月16日(金) 13:30 有松まちづくりの会総会 絞会館2階
16:30 NPO法人コンソーシアム有松総会 申申居
5月18日(日) 10:00 桶狭間古戦場まつり・万灯会 桶狭間古戦場公園他
5月19日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン
5月25日(日) 7:30 かえで道清掃
5月26日(月) 18:30 有松まちづくりの会役員会 コミセン
6月1日(日) 時間は地区ごと異なる 町内一斉町美活動

絞会館のウコン桜



有松公園の藤

町の一角に
お店・住宅の前に
素敵な花が一杯



《編集後記》改めて有松は、多くのこのまちを愛する人たちの手でつくられていることに気づかされた。更に、このまちの魅力を発信し、魅力を生み出している人々を紹介していきたい。

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)
編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)
pegasusb@mc.ccnw.ne.jp 取材・撮影 伊藤総俊

有松まちづくりの会はホームページを公開しています。「有松のまち」で検索。